

## 優れた若手研究型教員の人材育成システム

(実施期間：平成 20～24 年度)

実施機関：千葉大学（代表者：齋藤 康）

### 課題の概要

本課題の実施・運営のために生命系科学研究推進機構等を設置し、国際公募により優秀な人材を採用し、部局横断的な教育への効率的な参加など多彩な体験の場を提供することによって、各受入れ研究院・研究科の目指す世界的研究拠点形成の中核となる若手研究者の育成を行っていく。研究型教員(原則として特任准教授)には、独立したポストと研究スペース及び研究費を準備し、外部学識経験者が参画した評価により、受入れ研究科・研究院が准教授(原則)としてテニユアポストへの移行を決定する。必要となるテニユアポストは、本学の既存のポストを用意する。実施期間終了後も、本課題とほぼ同様の基準で各研究院・研究科でテニユアトラック教員を採用するだけでなく、この研究型教員制度の実績を踏まえて、自然科学系分野全体及びそれ以外の分野に本システムの円滑な移行を図っていく。

#### (1) 総合評価（所期の計画と同等の取組が行われている）

テニユアトラック教員の採用は計画どおりであり、本プログラムの経費を充当しない自主的取組も前倒しで進んでいる。また、科学者倫理教育を実施し、テニユア審査基準の開示や自主的取組に関する機関全体及び部局レベルの規定・細則の制定も進展する等テニユアトラック制の定着に向けた努力は評価でき、所期の計画と同等の取組が行われている。今後は、テニユアトラック教員の自立を確保・促進する観点から、メンター教員の選定基準や体制等の仕組みを再構築すること、さらに、テニユアトラック教員の意欲向上を促すために、テニユア教員として採用する際に昇任できる十分なテニユアポスト数を早急に明示することを期待する。

<総合評価：A>

#### (2) 個別評価

##### ①国際公募・選考・業績評価

課題実施初年度にテニユアトラック教員 10 名、その後毎年度 1 名以上を継続的に採用し、空席となったテニユアポストに対する追加採用や自主経費による採用も開始し、テニユア審査基準や審査プロセスをホームページ上で公開している点等は評価できる。なお、外国籍研究者や女性研究者の採用が少ないことから、今後は、多様な人材の採用と国際的拠点を目指す機関の目標に合致した国際公募システムの構築を期待する。

##### ②人材養成システム改革（上記①以外の制度設計に基づく実施内容・実績）

科学者倫理に関する教育やテニユアトラック教員の研究を支援しているポストドクターのキャリアアップ施策を積極的に進めていることは評価できる。しかし、国際性涵養や機関が定めたテニユア像に導くテニユアトラック教員の育成については、体制や施策を検討するなど、より具体化し実施することが必要である。また、「若手研究者支援室」に所属させているメンター教員間の意思疎通を図る体制を構築しているものの、メンター教員がテニユアトラック教員採用前に指導的立場にある場合が多いため、テニユアトラック教員の自立を確保するためのメンター教員の選定基準と指導基準等を詳細に検討することも必要である。

### ③人材養成システム改革（上記①以外の制度設計に対するマネジメント）

テニユアトラック教員の教育能力向上に関する施策が実施され、また、中間評価におけるライフイベント等への対応を柔軟に定めた覚書を作成していることは評価できる。今後は、既存の人材養成システムに対する改革の方向性を明確にし、多様な人材の確保、テニユアトラック制導入の効果・長所を活かした制度設計とそのマネジメントを、総括責任者のリーダーシップの下に実施することを強く期待する。

### ④実施期間終了までの進め方

機関全体のテニユアトラック制導入に係る規程を定め、それに基づいて部局レベルの細則の制定が進展しており、既に自主的取組によりテニユアトラック教員を採用したことは評価できる。しかし、テニユアとして採用する際に昇任できる上位のポスト数が十分ではないことがテニユアトラック教員の意欲に及ぼす影響を斟酌し、早急に適切なテニユアポストを準備及び開示することを期待する。

### ⑤実施期間終了以降の継続性・発展性

全ての経費を運営費交付金によって充当する部局型テニユアトラック制が開始され、研究費等に対する学長裁量経費の活用など定着に向けた努力は評価できる。なお、テニユアトラック教員を自機関のテニユアに採用した後も教員評価や研究費のインセンティブを与える「研究型教員」として処遇する計画については、機関全体の既存の人事システムを考慮した検討を行うこと、また、テニユアトラック制の位置付け・意義をより明確にした上で機関全体の人材養成システム改革に取り組むことを期待する。

## (3) 評価結果

総合評価	国際公募・選考・業績評価	人材養成システム改革（制度設計に基づく実施内容・実績）	人材養成システム改革（制度設計に対するマネジメント）	実施期間終了までの進め方	実施期間終了以降の継続性・発展性
A	a	b	b	a	a